様式④

教員活動状況報告書

提出日：令和　　6 年　　2 月　　27 日
所　属：生命・環境科学部　　臨床検査技術学科
氏　名：香川　成人　　職位：助教
役　職：

Ⅰ　ティーチング・ポートフォリオ

１．教育の責任（教育活動の範囲）

生命・環境科学部の学科において以下の微生物学関連の必修科目を担当している。微生物学総論、微生物学実習、臨床微生物実習等を通じ、学生に微生物の基本から臨床応用までを教える。特に、臨床検査技術学科では国家試験に向けて細菌、真菌、ウイルスの基礎知識の習得と検査技術の向上を目指し、学生が臨床検査技師としての必要なスキルと知識を身につけられるよう指導している。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
微生物学実習	臨床検査技術学科	必	2	85
微生物学実習	食品生命科学科	必	2	41
病原微生物学実習	食品生命科学科	必	2	46
微生物学実習	環境科学科	必	2	73
臨床微生物学実習	臨床検査技術学科	必	3	80
環境･病原微生物学	環境科学科	必	3	62
病原微生物学実習	環境科学科	必	3	51

２．教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

私は学生が社会で即戦力となる臨床検査技師を目指す中で、基本的な微生物学の知識だけでなく、臨床現場で直面する問題を解決できる能力を育成することを重視しています。このために、授業内での講義はもちろん、実習においては実際の病原微生物の同定作業や菌種特定の方法について深く理解できる教育を心掛けています。さらに、臨床検査技師として活躍するためには、コミュニケーション能力とチームワークが重要であると考え、これらのスキルの向上にも力を入れています。このような教育を通じて、学生は知識を習得するだけでなく、臨床検査技師としての責任感と倫理観を持ち合わせ、多様な臨床現場での活躍を目指す人材へと成長することを期待しています。

３．教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

授業では、微生物学の基本から細菌の培養方法、病原微生物の同定技術に至るまで、臨床検査技師として実際に必要とされるスキルに焦点を当てています。しかし、微生物の菌名など覚えにくい内容も多数存在します。そのため、講義資料ではできるだけ図表を取り入れ、視覚的に理解しやすいように工夫しています。さらに、学生が授業内容をより深く理解できるように、ICT を活用し、ビデオ教材やオンラインクイズを用いることで学習内容を充実させています。また、実習では、実際に病原体を扱い、学生自身が菌種を同定する経験を通じて、実践的な応用能力の向上を図っています。

アクティブラーニングについての取組

學理もしくは AzaMoodle に載せた授業資料で事前に予習をしてもらうようにしている。

ICT の教育への活用

動画やパワーポイントを用いて、教育するよう努めている。毎回、授業の際は學理もしくは AzaMoodle に資料に掲載し、定期試験などに活用してもらう。また、小テストを AzaMoodle 内で実施し、授業内容の理解を深めている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

今年度は麻布大学への着任初年度として、各学科の学生の特性を把握することから始めました。そのため、以下に挙げる各項目は、今年度の実践を踏まえて、次年度に向けて改善を図る予定です。

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

教員の話を単に聞くだけでなく、学生が能動的に参加する時間を設けるために、講義資料を穴埋め形式にし、学生に答えさせたり、穴埋め作業を行わせたりしています。

②学生の理解度の把握（B）

毎回、小テストを実施し理解度を測っています。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

講義資料は、授業日の数日前までに學理または AzaMoodle で共有し、学生が事前に学習できるよう穴埋め用の資料にしています。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

講義中および講義後に適宜、講義内容に関する質問に対応しています。さらに、時間外でもメールを通じて質問に対応しています。

⑤双方向授業への工夫（B）

講義や実習時に、質問された内容に対する解答を求めるだけでなく、「なぜそうなのか」を考えさせ、その理由を答えさせたりしている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

国家試験対策として、学生にとって必須の知識項目を中心に問題を作成し、学生の知識の向上に努めました。また、学生からの個別質問には迅速に対応し、彼らが納得するまで丁寧に解説しました。

5.学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

② ①の結果はどうでしたか。

今年度から本学に着任したため、前年度の授業評価がありません。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

今年度の学生アンケートを参考に、学生が難しいと感じる部分や改善を望む点を把握し、これらのフィードバックを基に、次年度の授業内容や方法を改善する予定です。

6.学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

講義内容の理解を深めるため、資料の重要部分を空白にしておき、学生が穴埋めを行ったり、講義中に教科書の重要箇所に直接印をつけさせたりしています。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学生から資料に関して、穴埋め式の形でよかった、資料がわかりやすかったなど肯定的なフィードバックを受け取りました。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

大学内で開催される FD 研修会には積極的に参加しています。参加できない場合は、後日、録画を視聴して学んでいます。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

社会で即戦力となる優秀な人材を育てること、そして国家資格合格率を 100%に近づけることを目指していきます。その過程において学生に対して威圧感を与えないよう、笑顔を心掛けるなど、温かみのある接し方を意識し相談しやすい環境を提供していきます。また、定期的に自己の教育手法を見直し、他の教員の成功事例を積極的に取り入れることで教育の質を向上させていきます。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス、小テスト、教材（教科書、パワーポイント資料）、試験問題